

本市では、昼も夜も歩いて楽しめる都市空間の創出のため、まちなか再生プロジェクトや駐車場配置の適正化などに取り組んでいる。この取組の一環として、景観デザインの推進のため、公共サインガイドライン及び光のマスタープランの策定を行うもの。

1. 公共サインガイドラインについて

1) 策定目的

背景

公共サイン（不特定多数が利用する公共性の高い案内誘導板等の総称）については統一したサインデザインの考え方や移動の誘導システムの基準が定められておらず、公共サインを整備しようとする部署の裁量で設置範囲におけるサインを計画し、設置や管理を行ってきた。

目的

市域全域に設置される全ての公共サインを対象とし、サイン整備に関する方針を整理し、基準をガイドラインで定めることで、分かりやすいサインの整備を誘導し、利便性・回遊性の向上や良好な景観形成を図る。

2) 4つの基本方針

基本方針を踏まえ、サインの整備及び維持管理を行う。

- 視認性を向上させる
- 統一性を保ち周辺景観に調和する
- 情報の連続性を確保する
- 持続可能なものとする

3) デザイン基準

歩いて楽しいまちづくりのため、主に歩行者を対象とした屋外等公共空間から視認できる以下のようなサイン等については、基準を定めサインの整備を随時行う。

【例示】



2. 光のマスタープラン（MP）について

1) 策定目的

- 夜間景観の理念や方針を明らかにし、官民間問わず、市民一人ひとりが意識をもって、中心市街地や地域拠点をはじめとした、魅力ある夜間景観の創出を図る。

2) 光のコンセプト・夜間景観の目標

本市の特性	豊かな自然 伝統ある歴史・文化	震災からの復興による 新たな魅力・活力	地域を支える 人と人の絆
光のコンセプト	「活」：景観資産の魅力を引き出し、市民の暮らしを支える光 「迎」：人々のもてなしの心によって、安らぎと温もりを伝える光 「結」：人々の意思によって灯し、人・時・場・コトを共有する光		

目指す将来像

街並みの情感、質感が洗練され、熊本市の顔（目鼻立ち）がより魅力的に伝わるまち
 — 水と緑・暮らしを彩る多核連携都市 —



3) ガイドライン（コンセプトを具体化するための基準及び指針等）

（1）“基本的な”照明・演出の仕様（市内共通）

- 景観スケール：視点に応じた照明計画の考え方
- デザインコード：光源の推奨基準（色温度、グレアレス、演色性等）

（2）“新たな魅力を創出する”景観タイプ毎の夜間景観の方針

景観タイプ（例示）	夜間景観形成の方針	具体的な演出手法 及び ケーススタディを 提示
商店街	賑わいを感じる夜間景観 等	
駅前	期待感やもてなしを感じる夜間景観 等	
歴史的建物が残る街並み	歴史の趣を感じる夜間景観 等	
公園・緑地	自然との共生を図る夜間景観 等	
⋮	⋮	

〈その他の景観タイプ〉

- 市電・バス路線、○住宅街、○河川・橋梁

3. 今後のスケジュールについて

- 今後、素案の調整を進め、R2年度内に策定を行い、R3年度4月から運用開始予定。